

2023 年 10 月 31 日

東日本旅客鉄道株式会社

2024 年 3 月期第 2 四半期決算に関する Web 一斉取材 主な Q&A

※ 当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

[運輸収入]

Q: ジャパン・レール・パス等の価格改定による影響は。

A: ジャパン・レール・パスの有効期限は 3 箇月であるため、しばらくは 9 月までに購入されたお客さまのご利用が中心となる見込みであり、価格改定による効果は第 4 四半期以降に出てくると予想している。円安の影響もあることから、パスの価格上昇が買い控えにつながるとは考えていない。

Q: 定期外収入の実績が在来線・新幹線ともに計画を下回った理由は。

A: 在来線は第 2 四半期に計画差が大きくなったが、これは 8 月中旬の台風や、猛暑による出控えの影響があったものと捉えている。新幹線は、Web 会議の浸透等により平日のビジネス利用が戻っていないためである。本日開設した平日旅の特集ホームページ等を活用して、平日の流動を促進していきたい。

[下期の見通し]

Q: 上期よりも下期に費用が増える理由は。また、通期を見通した時に、動力費や物件費その他などが計画を下回れば、利益は通期計画を上回るか。

A: もともと修繕費などは下期に費用が出やすい構造であり、下期は上期ほど利益が出にくいことを踏まえると、現時点では実際の利益が通期計画から大きく乖離することはないと判断している。

費用の内訳として計画対比の増減は見込まれる。動力費は単価減の影響により通年で計画を 150 億円程度下回る見込みであるほか、物件費その他も公共料金(電気代)の減の影響などにより通期計画を下回る見込みである。一方で、人件費は夏賞与支給月数の増加などにより通期計画を上回る見込みである。

以上